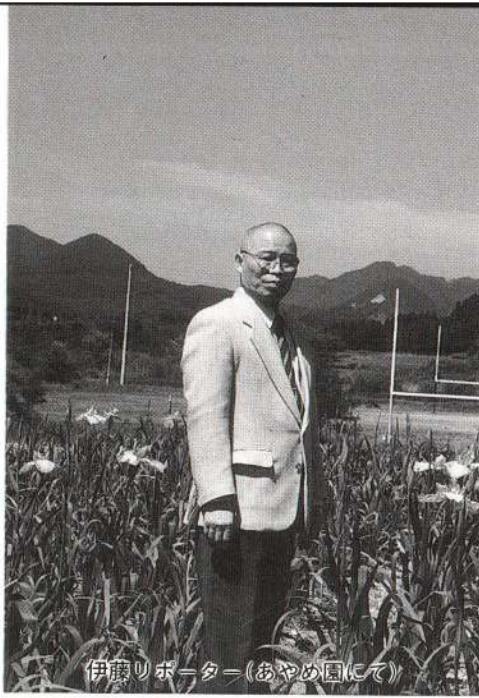


# 市民リポーターだより No.1

## 「あやめの里」づくり

リポーター 伊藤 泰<sup>たい</sup> 順<sup>じゅん</sup>さん(日景町2区)

釈迦内の「あやめ園」の始まりは八年前にさかのぼります。平成三年「大館西道路」の計画が浮上り、日本鉦業(株)が所有する建物「日鉦クラブ」が路線ルートにかかり、釈迦内鉦山では、その土地、家屋などを売却し、大館市に寄付されました。また、釈迦内鉦山第三立坑跡一帯が整地され、その場所に釈迦内公民館が移転、新築されました。



伊藤リポーター(あやめ園にて)

その後「日鉦クラブ」は、移転保存のために解体され、釈迦内公民館の隣に総額六千万円をかけ修復再建されました。銅ふきの屋根が一層重みを増して、展示室、会議室、和室、茶室などを備えた純和風の「あやめ苑」として立派な姿を現しました。この貴重な建造物「あやめ苑」は地域の多くの人がたがたから利用されております。また、町内会長連絡協議会の金義美会長は、地域振興策の実現のために大館市にアヤメ移植を要請したところ、市の都市開発課によって、その隣接地約一千平方メートルに野アヤメ、満州アヤメ、ハナシヨウブ、金剛城、源氏螢、愛知の輝など十二種類、七千四百十三本が植えられました。「あやめ園」の創設です。

しかし、四、五年間は草取りなどの手入れがなされず「あやめ園」の株は一時、三千本にまで減少し



昨年の「あやめまつり」から

てしまいました。その後、平成六年、畠山勝蔵釈迦内まちづくり協議会会長は「釈迦内まちづくり」の一環として、野アヤメ、ハナシヨウブの手入れに着手すべく、地域の方々に声をかけ、各町内からボランティアの協力もあって、「あやめ園」は立派によみがえりました。

### あやめまつり開催に向けて

畠山まちづくり協議会会長を實行委員長に、丹後利市公民館館長、金町内会長連絡協議会会長、日景誠一交通安全協会釈迦内地区支部長、柳沢トキ子婦人会会長を副委員長とし、理事、実行委員で、あやめまつり実行委員会を発足させました。事業部、運営部と役割分担を決め、あやめまつりのポスターは第二中学校生徒に、開会式の演奏は釈迦内小学校ハーモニッ

クバンド、カラーカードに依頼しました。イベントでは、アヤメの株分け、踊り、お茶会、大抽選会を行うほか、ビール、焼き鳥、ポップコーン、わたあめ、金魚すくい、野菜、食堂販売などの出店を決めました。

平成八年六月三十日、午前九時三十分、小畑市長、来賓を迎え、大勢の地域市民の列席のもと、第一回あやめまつりの開会式が行われました。畠山実行委員長が開催にこぎつけるまでの経緯、協力くださった方々に感謝の意を表され、将来は「あやめの里」づくりの第一歩としたいとあいさつされました。来賓を代表し、小畑市長は、地域の皆さんが「あやめまつり」開催にこぎつけたご苦労に敬意を表すると祝辞を述べられました。

昨年七月、あやめ園の拡張のため、八千平方メートルの土地のうち中央広場、歩道を除く五千平方メートルに、事業費百三十五万円をかけ、アヤメ五千株、ハナシヨウブ一万一千株を六区画に分け移植しました。

今年は第三回あやめまつりが六月二十七日、二十八日に開催されました。市民の皆さん、機会がありましたら「あやめ園」へぜひお出かけください。